

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100444		
法人名	医療法人岩河会		
事業所名	グループホーム びらふ (Bユニット)		
所在地	高知県香美市香北町美良布1298番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972100444-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

香北町の中心地に事業所があり、近くには商店や観光地もあり地域に密着した立地条件となっている。地元の職員が多く雑談をしながら、ゆったりとした生活を送っています。利用者の方に、季節感を感じてもらえるように、四季折々の歌や行事、壁に写真を貼ったり、身体や指を動かす体操にも取り組んでいます。また敷地内には、介護老人保健施設や診療所が隣接しており利用者の方の安心と安全のなかで生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの影響で外出行動が大幅に抑制される中、達成感を味わうことができる余暇活動やレクリエーションを積極的に取り入れながら、利用者のストレス発散・軽減を図っている。優れている点としては、次の2点がある。まず、市町村関係者と横の繋がりが深く、地域の情報や課題などについて気軽に話ができる関係が構築されていること。次に、母体(医療機関)が隣接しているため、利用者・家族・職員に医療面での安心・安全をもたらすと共に、スピーディーな医療連携が図られていること。工夫点としては、昔培ったこと・習ったこと・やったことを事業所内で実践することで、ペースト食が普通食になった利用者があり、日常生活動作(ADL)の向上に繋がっていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が一人一人の生活歴や環境を把握し、それを踏まえた理念に基づき、利用者主体の実践につなげている。	ホール入口、玄関、事務所に理念を掲示し、職員に周知すると共に、毎月1・2階合同で行う部所会の中で取り組み状況の確認や振り返りを行っている。また、個人面談でも指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の商店の方からも認知症の相談があり、支援の在り方を共有している。町内会にも加入しており、町内一斉清掃や、回覧板等を通して地域と交流をしている。	町内の清掃活動や地区の集会などに職員が参加し、地域の人と交流を深めている。コロナ禍以前は、社協の歌やコーラスのボランティアが来たり、町内の防災訓練に参加したり、グループホーム主催の祭りに地域の人が大勢参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に当施設に入居していた利用者のご家族から退去後も、差し入れ(ご家族が作った野菜等)があったりと、円滑な関係性を維持できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であったため、運営推進会議にご家族を呼ぶことが出来ず、ご家族からの意見・要望は文書や、電話連絡等で行っていたが、今後は定期的に運営会議を開き、意見・要望を直接聞いて、サービスの向上に活かしていく。	今年の7月まで書面会議であり、9月から通常通り、対面形式で会議を行っている。参加者は市担当者、地域の代表者、家族である。出された意見は、面会場所の変更や洋服・下着の清潔不潔の分別作業などに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係各所とは密に連絡を取り合っており、介護保険サービスにおける当施設の実情や、利用者に対する取り組み状況を踏まえ、相談等を行っている。	管理者が窓口となり、介護保険の更新や利用者の問い合わせなど、市担当者や地域包括、福祉事務所と積極的に連携している。また、情報交換も細やかに行っている。気軽に話ができる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態が変わったことが見られたら、職員間で情報を共有して、より良いケアに取り組んでいる。	3ヶ月に一回、身体拘束廃止委員会を実施している。また、年2回、管理者が講師となり、事業所内で起きた事例を基に研修を行っている。特にスピーチロックに関しては、自分がされたらどう思うかを念頭に置き、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的の高齢者虐待防止の研修により理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者、職員間での話し合いは日々、行っており、成年後見制度については各職員は十分に理解できているが、現状ではそういった制度を活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明、又は条件はご家族に十分に説明しており、仮に入居後に何らかの変更があった際にも、その都度、ご家族に連絡をし、柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や、ご家族からの意見・要望はその都度、管理者を含めて全ての職員が情報を共有化し、事業所の運営に柔軟に対応している。また、コロナ禍において、面会の相談があり、早急な対応を行っている。	利用者は日常会話から、家族は来訪時に意見や要望を聞き取っている。出された意見は、嗜好品の提供や写真の掲示などに反映している。利用者から出た苦情や要望は文章化し、部所会で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部所会を開催し、事業所の運営に関する意見交換を行っている。また、日々の業務の中でも職員間で、気づきや思いの共有化を行っている。	毎月の部所会や個人面談の中で、職員から意見や提案を聞き取っている。出された意見は、食事の形態やレクリエーションの内容、勤務時間の変更などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を含む職員は、自身の職務に誠実に、積極的に取り組んでおり、代表者は定期的に施設訪問を行い、状況の把握に努めている。また、各職員からも代表者に対して意見・要望を伝える機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルアップや力量の向上を図るために、代表者は各職員に対して、積極的な各研修への参加を推奨している。また、法人内での研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は「グループホーム連絡評議会」に加入しており、代表者や管理者は、新型コロナの関係上、参加をする機会は少ないが、電話等で他の事業所との意見交換も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者自身の望みの生活を鑑み、サービスの内容に反映させている。また、寝不足等で、疲れや眠気が見られたら、言葉をかけてベットの時間を設けるなど、本人主義の姿勢でサービスを提供し、利用者との良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止めていく体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みがあれば管理者等職員が、ご本人・ご家族と面談を行い、当施設で提供できるサービス内容をカンファレンス等話し合いで本人が必要としているサービス内容を検討し、入居に対する対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、職員は利用者と共に家事や談話等をし、昔の話を傾聴したり、一緒に家事を行った際には「ありがとう。」「お疲れ様。」といった声かけを行うことによって、より良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度、本人・家族・職員で相互の意向や希望などを話し合う場を設けている。本人にとっての今の課題を一緒に考えたり、ご家族にも本人の現状や気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げていく努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの人間関係には十分に配慮を行っており、地域との関係性を損なわない支援を行っている。また、同じ法人施設間で過ごしている方々との人間関係にも配慮をしている。	電話の取次ぎや年賀状・絵手紙のサポートに努めている。コロナ禍以前は、近くの神社へ散歩に行ったり、道の駅に買い物に出かけたり、鏡野公園へ花見に行ったりしていた。また、良心市で買い物したり、地域の人と会話したりして、馴染みの関係維持に努めていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事、体操、洗濯物干しや洗濯物畳みを職員も含めて一緒にして頂くなど、利用者同士が互いに関わりあえる環境を多くつくり、より良い共同生活が送れる様に、日々努めている。また、利用者同士の支え合う場面も毎日のようにあり、お互いが安心をして過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、退去された利用者のご家族に出会った際には挨拶や世間話、退去された利用者の現在の状況等の情報交換を行い、必要であれば、相互に相談・支援を行える環境づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談の際、本人やご家族から身体状況や本人の好きなもの、趣味や意向などを聞き取り、想いの把握に努めている。例えば、編み物が得意な利用者には家族の方から出来上がった座布団をプレゼントしている。	暮らしの希望等は、入居時に家族から聞いている。困難な場合は、利用者の表情や言動で把握している。また、トライアンドエラーを利用して確認している。入居前の生活環境等を把握・実践することで、改善した利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人の生活状況や環境を性格に把握し、入居後のサービスの内容に活かしている。また、入居した後にもご家族との面会の際や、電話での連絡事項のやり取りの時に必要に応じて聞き取りを行いこれまでの生活の状況の詳しい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の身体状態や精神状態、認知力等を観察し、それを正確に記録に残し、必要に応じてカンファレンスを開いて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活する上での必要な衣・食・住や、医療面にも目を向けてアセスメントやカンファレンスを行い「できる力」を保ち、継続して行うことができるよう介護計画を作成している。	本人及び家族から聞き取ったアセスメントを基にケアプランを作成。担当職員がモニタリングした後、ケアマネジャーが確認している。利用者の状態・状況に変化があればその都度、見直ししている。主治医や作業療法士の意見や提案も介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施したケアプランやその際の利用者の状態、ケアプランを実施した結果や新たな気づきなどは各職員が細かく記録に残している。また、職員間で口頭でも伝えあっており、ケアプランの継続、または見直しにも十分に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその都度の状況に合わせて支援の内容は職員間、もしくはご家族の意見も取り入れ、柔軟な変更や支援の多機能化に日々、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援に必要な地域資源は十分に把握できており、利用者の希望に沿って、地域のスーパーから本人の好きな飲み物を取り寄せたりと、利用者の希望に沿った地域資源の活用ができています。また、必要に応じて、地域の美容師さんに訪問カットの依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の要望に合わせた医療機関の受診を行っている。体調などに変化があればかかりつけ医に詳しく分かるよう、文章にして伝えている。また受診時には職員が同行しており、診療所の看護師も定期的に来所し、利用者の健康チェックも行っている。	ほとんどの利用者がかかりつけ医を継続している。定期処方家族対応としているが、職員も同行している。急を要する場合は事業所に対応している。また、週一回、隣接した協力医(母体)から看護師が来て、健康チェックを行っている。聞きたいことや分からないことがあれば「医療ノート」を活用して情報共有している。歯科は近隣の歯科へその都度連絡し、往診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の身体・精神の状況を常に観察・把握し、必要に応じて在中看護師に報告・相談を行い、適切な対応を行っている。また同敷地内の診療所看護師の協力体制も出来ており、素早い看護連携体制の構築が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関の確保はもちろんの事、利用者のかかりつけ医との綿密な連携、医療情報の交換や相談等は十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所ではターミナルケアは行ってはいないが、ご家族へ利用者の状態は常に報告を行っており、状態が悪化する前に、主治医への相談・報告・受診等を適切に行っている。	契約時、事業所で出来ること・出来ないこと、看取りの指針について説明し、同意を得ている。日頃から利用者の状態・状況を家族に報告・連絡しているが、重度化して医療行為が発生する場合は家族と相談し、今後の方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の協力のもと、救命救急処置、AED操作の学習をし、急変、事故発生時の対応の仕方についての実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立ち合いのもと、各種災害を想定した訓練を行い、利用者が速やかな避難ができる方法を身につけている。また長期に渡って在住している利用者家族、近隣の関係各所との連絡作りを行うなど、BCPの作成に尽力している。	消防署立ち合いのもと、利用者も参加して、火災と地震を想定した避難訓練を行っている。また、AEDの使用方法や簡易担架の作り方なども学んでいる。備蓄品は、水3日分、レトルト食品などがある。	地域住民への参加呼びかけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重し、生活環境や職歴を踏まえて、その人に合った言葉かけをしている。	立ち上がったらさりげなくトイレ誘導する、入浴時タオルで体を覆う、トイレのドアを閉めるなど、利用者のプライドやプライバシーに配慮した対応をしている。また、さん付け呼称を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームでの日常生活を快適なものにするために、常に本人の意向や希望を聞き取り、自身で選択をできる環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活のペースを尊重し、本人の意向に沿った生活ができるように支援をしている。余暇時には「絵を塗りたい」「パズルをしたい」「お風呂は最後にしたい」など、その人らしい支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がこれまでの生活の中で行っていた身だしなみの仕方などは常に尊重し、施設側の都合によって変更を強いることはない。本人が好きな衣服もご家族に持って来てもらい、本人が納得できる姿で生活ができる環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューには利用者の希望を尊重するように心がけており、本人の食べたい物を聞き取り、提供することもある。また、食事の前後にテーブルを拭いてもらったり、食器を洗ってもらったりと、その人のできる事柄を尊重した支援を行っている。	季節の材料を用いたメニューや行事食を提供したり、利用者の苦手な物を好きな物に変えたりして、食事が楽しくなるように工夫している。また、机拭きや食器洗いなど、利用者の残存能力に合わせて職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態の変化や、一時的な状態の変化が見られる場合には、即、同じ法人内の管理栄養士に報告・相談をし、健康維持を図っている。また水分摂取量などは毎日、計測・観察をしており、摂取量が少ない日が続くような場合にも管理栄養士や医師に相談をし、その人の飲みやすいものを提供、場合によっては看護師による点滴の施行等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアは必ず行っており、自身で歯磨きができる人には自身で行ってもらい、介助が必要な場合にはその都度、適切な介助を行っている。口腔内の治療が必要な場合には歯科往診の依頼も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄管理は毎日行っており、適度な排泄が維持できる様、個々に適した排泄支援を行っている。利用者一人一人の排泄パターンを把握し、定時誘導などを行い、排泄の失敗のないように支援をしている。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握している。日中は定時誘導の他、紙・布パンツ、パットなどで対応している。夜間はポータブルトイレやパット交換など、一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者に対しては、適度な運動を行い、排泄を促すように努めているが、時には医師に相談をし、便秘薬の処方・服薬を行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は、ほぼほぼ決まっているが、それを利用者に強要することはなく、各利用者のその時々状態に合わせて入浴支援を行っている。また、仲の良い利用者同士を同じタイミングで浴室に誘導したり、「ゆず風呂」など、季節感を感じて入浴を楽しめるようにする演出も行っている。	週3回入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴することも可能である。シャワー浴が中心の1階に対して、2階は半数以上が浴槽に浸かっている。また、ゆず湯や温度調整など、入浴が楽しく快適になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の日々の体調や状態に合わせて、受診等で疲れが見られる場合にはベットの時間を取り、休息を取ることができる様に支援を行っている。また、夜間に寝つけが良くない時には職員が寄り添い、時にはお話を傾聴して安心していただき、安眠できるような支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理や用法に関しては個々のファイルを作成し、管理を行っている。利用者の状態に変化があった際には即、在中看護師に相談を行い、状態に即した処置も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の習慣や趣味、嗜好は常に把握しており、楽しみのある日々を送ることが出来るよう、支援を行っている。例えば読書や編み物、塗り絵やパズル。歌と一緒に歌うなど、本人の希望に沿い、時には職員も交えてレクリエーションを行って気分転換を図ることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナといった外的な要因もあり、必要に駆られた場合でない限り、日常的な外出は控えているが、施設周辺を散歩して会話を楽しみ、気分転換に努めている。また、施設の窓越しにご家族と顔を見せ合い、電話を通じて会話をするといった方法での支援も行っている。	新型コロナの状況を見ながら、事業所周辺を散歩するなど、柔軟に対応している。コロナ禍以前は、家族とドライブや外食に出かけたり、職員と一緒に近くの神社や商店に行ったり、回覧板を持って行ったりしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に沿えるように、必要な利用者には少額のお金を持ってもらい、自己にて管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙などは必ず利用者本人に手渡している。ご家族が利用者と電話を使って話したいといった要望があった際には、ゆっくりと話ができる時間を伝え、お話をしている。また、利用者が電話でご家族と話がしたいといった希望があった場合には職員が取次ぎをし、お話をしてもらい、時には職員がご家族に現在の暮らしぶりを伝えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下のベンチやホール内のソファに座り、季節の壁画などを見て会話を膨らませたり、季節感を感じてもらえるように工夫をしている。	共有ホールは大きな窓で囲まれており、日当たりも良く、四季の移り変わりを見て・感じるができる。また、温度や湿度も適切に管理されている。機能的で利用者同士の交流を踏まえた机の配置となっており、パズルやぬり絵をしたり、新聞や週刊誌を読んだりして、思い思いに快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内での席の場所は常に考慮しており、仲の良い利用者さん同士を同じテーブルに座ってもらったりといった配慮を行っている。食後には仲の良い方と居室内でテレビを見なが談笑し、笑い声が聞こえてくる様子も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居をする前に日ごろから使い慣れた物を持ち込むことの必要性を利用者本人や家族にも伝えている。	馴染みの家族写真や布団、旅行のお土産、書写、計算ドリルなどが持ち込まれており、個々に居心地良く、家族の思いも詰まった空間となっている。また、清掃が行き届いており、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーになっており、廊下には手すりを設置。各利用者の居室の入り口には利用者本人、家族の意向を重視したうえで名前を掲示し、その近くには各利用者が作成した塗り絵や折り紙を飾る等の工夫を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100444		
法人名	医療法人岩河会		
事業所名	グループホーム びらふ (Aユニット)		
所在地	高知県香美市香北町美良布1298番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972100444-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

香北町の中心地に事業所があり、近くには商店や観光地もあり地域に密着した立地条件となっている。地元の職員が多く雑談をしながら、ゆったりとした生活を送っています。利用者の方に、季節感を感じてもらえるように、四季折々の歌や行事、壁に写真を貼ったり、身体や指を動かす体操にも取り組んでいます。また敷地内には、介護老人保健施設や診療所が隣接しており利用者の方の安心と安全のなかで生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの影響で外出行動が大幅に抑制される中、達成感を味わうことができる余暇活動やレクリエーションを積極的に取り入れながら、利用者のストレス発散・軽減を図っている。優れている点としては、次の2点がある。まず、市町村関係者と横の繋がりが深く、地域の情報や課題などについて気軽に話ができる関係が構築されていること。次に、母体(医療機関)が隣接しているため、利用者・家族・職員に医療面での安心・安全をもたらすと共に、スピーディーな医療連携が図られていること。工夫点としては、昔培ったこと・習ったこと・やったことを事業所内で実践することで、ペース食が普通食になった利用者があり、日常生活動作(ADL)の向上に繋がっていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が一人一人の生活歴や環境を把握し、それを踏まえた理念に基づき、利用者主体の実践につなげている。	ホール入口、玄関、事務所に理念を掲示し、職員に周知すると共に、毎月1・2階合同で行う部所会の中で取り組み状況の確認や振り返りを行っている。また、個人面談でも指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の商店の方からも認知症の相談があり、支援の在り方を共有している。町内会にも加入しており、町内一斉清掃や、回覧板等を通して地域と交流をしている。	町内の清掃活動や地区の集会などに職員が参加し、地域の人と交流を深めている。コロナ禍前は、社協の歌やコーラスのボランティアが来たり、町内の防災訓練に参加したり、グループホーム主催の祭りに地域の人が大勢参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に当施設に入居していた利用者のご家族から退去後も、差し入れ(ご家族が作った野菜等)があったりと、円滑な関係性を維持できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であったため、運営推進会議にご家族を呼ぶことが出来ず、ご家族からの意見・要望は文書や、電話連絡等で行っていたが、今後は定期的に運営会議を開き、意見・要望を直接聞いて、サービスの向上に活かしていく。	今年の7月まで書面会議であり、9月から通常通り、対面形式で会議を行っている。参加者は市担当者、地域の代表者、家族である。出された意見は、面会場所の変更や洋服・下着の清潔不潔の分別作業などに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係各所とは密に連絡を取り合っており、介護保険サービスにおける当施設の実情や、利用者に対する取り組み状況を踏まえ、相談等を行っている。	管理者が窓口となり、介護保険の更新や利用者の問い合わせなど、市担当者や地域包括、福祉事務所と積極的に連携している。また、情報交換も細やかに行っている。気軽に話ができる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態が変わったことが見られたら、職員間で情報を共有して、より良いケアに取り組んでいる。	3ヶ月に一回、身体拘束廃止委員会を実施している。また、年2回、管理者が講師となり、事業所内で起きた事例を基に研修を行っている。特にスピーチロックに関しては、自分がされたらどう思うかを念頭に置き、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的の高齢者虐待防止の研修により理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者、職員間での話し合いは日々、行っており、成年後見制度については各職員は十分に理解できているが、現状ではそういった制度を活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明、又は条件はご家族に十分に説明しており、仮に入居後に何らかの変更があった際にも、その都度、ご家族に連絡をし、柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や、ご家族からの意見・要望はその都度、管理者を含めて全ての職員が情報を共有化し、事業所の運営に柔軟に対応している。また、コロナ禍において、面会の相談があり、早急な対応を行っている。	利用者は日常会話から、家族は来訪時に意見や要望を聞き取っている。出された意見は、嗜好品の提供や写真の掲示などに反映している。利用者から出た苦情や要望は文章化し、部所会で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部所会を開催し、事業所の運営に関する意見交換を行っている。また、日々の業務の中でも職員間で、気づきや思いの共有化を行っている。	毎月の部所会や個人面談の中で、職員から意見や提案を聞き取っている。出された意見は、食事の形態やレクリエーションの内容、勤務時間の変更などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を含む職員は、自身の職務に誠実に、積極的に取り組んでおり、代表者は定期的に施設訪問を行い、状況の把握に努めている。また、各職員からも代表者に対して意見・要望を伝える機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルアップや力量の向上を図るために、代表者は各職員に対して、積極的な各研修への参加を推奨している。また、法人内での研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は「グループホーム連絡評議会」に加入しており、代表者や管理者は、新型コロナの関係上、参加をする機会は少ないが、電話等で他の事業所との意見交換も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者自身の望みの生活を鑑み、サービスの内容に反映させている。また、寝不足等で、疲れや眠気が見られたら、言葉をかけてベットの時間を設けるなど、本人主義の姿勢でサービスを提供し、利用者との良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止めていく体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みがあれば管理者等職員が、ご本人・ご家族と面談を行い、当施設で提供できるサービス内容をカンファレンス等話し合いで本人が必要としているサービス内容を検討し、入居に対するの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中、職員は利用者と共に家事や談話等をし、昔の話を傾聴したり、一緒に家事を行った際には「ありがとう。」「お疲れ様。」といった声かけを行うことによって、より良い関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度、本人・家族・職員で相互の意向や希望などを話し合う場を設けている。本人にとっての今の課題と一緒に考えたり、ご家族にも本人の現状や気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げていく努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの人間関係には十分に配慮を「行っており、地域との関係性を損なわない支援を行っている。また、同じ法人施設間で過ごしている方々との人間関係にも配慮をしている。	電話の取次ぎや年賀状・絵手紙のサポートに努めている。コロナ禍以前は、近くの神社へ散歩に行ったり、道の駅に買い物に出かけたり、鏡野公園へ花見に行ったりしていた。また、良心市で買い物したり、地域の人と会話したりして、馴染みの関係維持に努めていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事、体操、洗濯物干しや洗濯物畳みを職員も含めて一緒にして頂くなど、利用者同士が互いに関わりあえる環境を多くつくり、より良い共同生活が送れる様に、日々努めている。また、口数が少ない利用者の方への支援としては、職員が間に入ってパイプ役となっている。自席の配置にも配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し、退去された利用者のご家族に出会った際には挨拶や世間話、退去された利用者の現在の状況等の情報交換を行い、必要であれば、相互に相談・支援を行える環境づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談の際、本人やご家族から身体状況や本人の好きなもの、趣味や意向などを聞き取り、思いの把握に努めている。例えば、編み物が得意な利用者には家族の方に出来上がった座布団をプレゼントしている。	暮らしの希望等は、入居時に家族から聞いている。困難な場合は、利用者の表情や言動で把握している。また、トライアンドエラーを利用して確認している。入居前の生活環境等を把握・実践することで、改善した利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人の生活状況や環境を性格に把握し、入居後のサービスの内容に活かしている。また、入居した後もご家族との面会の際や、電話での連絡事項のやり取りの時に必要に応じて聞き取りを行いこれまでの生活の状況の詳しい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の身体状態や精神状態、認知力等を観察し、それを正確に記録に残し、必要に応じてカンファレンスを開いて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活する上での必要な衣・食・住や、医療面にも目を向けてアセスメントやカンファレンスを行い「できる力」お保ち、継続して行うことができるよう介護計画を作成している。	本人及び家族から聞き取ったアセスメントを基にケアプランを作成。担当職員がモニタリングした後、ケアマネジャーが確認している。利用者の状態・状況に変化があればその都度、見直ししている。主治医や作業療法士の意見や提案も介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施したケアプランやその際の利用者の状態、ケアプランを実施した結果や新たな気づきなどは各職員が細かく記録に残している。また、職員間で口頭でも伝えあっており、ケアプランの継続、または見直しにも十分に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその都度の状況に合わせて支援の内容は職員間、もしくはご家族の意見も取り入れ、柔軟な変更や支援の多機能化に日々、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護支援に必要な地域資源は十分に把握できており、利用者の希望に沿って、地域のスーパーから本人の好きな飲み物を取り寄せたりと、利用者の希望に沿った地域資源の活用ができています。また、必要に応じて、地域の美容師さんに訪問カットの依頼も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の要望に合わせた医療機関の受診を行っている。体調などに変化があればかかりつけ医に詳しく分かるよう、文章にして伝えている。また受診時には職員が同行しており、診療所の看護師も定期的に来所し、利用者の健康チェックも行っている。	ほとんどの利用者がかかりつけ医を継続している。定期処方は家族対応しているが、職員も同行している。急を要する場合は事業所に対応している。また、週一回、隣接した協力医(母体)から看護師が来て、健康チェックを行っている。聞きたいことや分からないことがあれば「医療ノート」を活用して情報共有している。歯科は近隣の歯科へその都度連絡し、往診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の身体・精神の状況を常に観察・把握し、必要に応じて在中看護師に報告・相談を行い、適切な対応を行っている。また同敷地内の診療所看護師の協力体制も出来ており、素早い看護連携体制の構築が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関の確保はもちろんの事、利用者のかかりつけ医との綿密な連携、医療情報の交換や相談等は十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所ではターミナルケアは行ってはいませんが、ご家族へ利用者の状態は常に報告を行っており、状態が悪化する前に、主治医への相談・報告・受診等を適切に行っている。	契約時、事業所で出来ること・出来ないこと、看取りの指針について説明し、同意を得ている。日頃から利用者の状態・状況を家族に報告・連絡しているが、重度化して医療行為が発生する場合は家族と相談し、今後の方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署の協力のもと、救命救急処置、AED操作の学習をし、急変、事故発生時の対応の仕方についての実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立ち合いのもと、各種災害を想定した訓練を行い、利用者が速やかな避難ができる方法を身につけている。また長期に渡って在住している利用者家族、近隣の関係各所との連絡作りを行うなど、BCPの作成に尽力している。	消防署立ち合いのもと、利用者も参加して、火災と地震を想定した避難訓練を行っている。また、AEDの使用方法や簡易担架の作り方なども学んでいる。備蓄品は、水3日分、レトルト食品などがある。	地域住民への参加呼びかけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重し、生活環境や職歴を踏まえて、その人に合った言葉かけをしている。	立ち上がったらさりげなくトイレ誘導する、入浴時タオルで体を覆う、トイレのドアを閉めるなど、利用者のプライドやプライバシーに配慮した対応をしている。また、さん付け呼称を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームでの日常生活を快適なものにするために、常に本人の意向や希望を聞き取り、自身で選択ができる環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活のペースを尊重し、本人の意向に沿った生活ができるように支援をしている。余暇時間には「絵を塗りたい」「パズルをしたい」「お風呂は最後にしたい」など、その人らしい支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がこれまでの生活の中で行っていた身だしなみの仕方などは常に尊重し、施設側の都合によって変更を強いることはない。本人が好きな衣服もご家族に持って来てもらい、本人が納得できる姿で生活ができる環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューには利用者の希望を尊重するように心がけており、本人の食べたい物を聞き取り、提供することもある。また、食事の前後にテーブルを拭いてもらったり、食器を洗ってもらったりと、その人のできる事柄を尊重した支援を行っている。	季節の材料を用いたメニューや行事食を提供したり、利用者の苦手な物を好きな物に変えたりして、食事が楽しくなるように工夫している。また、机拭きや食器洗いなど、利用者の残存能力に合わせて職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態の変化や、一時的な状態の変化が見られる場合には、即、同じ法人内の管理栄養士に報告・相談をし、健康維持を図っている。また水分摂取量などは毎日、計測・観察をしており、摂取量が少ない日が続くような場合にも管理栄養士や医師に相談をし、その人の飲みやすいものを提供、場合によっては看護師による点滴の施行等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアは必ず行っており、自身で歯磨きができる人には自身で行ってもらい、介助が必要な場合にはその都度、適切な介助を行っている。口腔内の治療が必要な場合には歯科往診の依頼も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄管理は毎日行っており、適度な排泄が維持できる様、個々に適した排泄支援を行っている。利用者一人一人の排泄パターンを把握し、定時誘導などを行い、排泄の失敗のないように支援をしている。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握している。日中は定時誘導の他、紙・布パンツ、パットなどで対応している。夜間はポータブルトイレやパット交換など、一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者に対しては、適度な運動を行い、排泄を促すように努めているが、時には医師に相談をし、便秘薬の処方・服薬を行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は、ほぼほぼ決まっているが、それを利用者に強要することなく、各利用者のその時々状態に合わせて入浴支援を行っている。また、仲の良い利用者同士を同じタイミングで浴室に誘導したり、「ゆず風呂」など、季節感を感じて入浴を楽しいものにする演出も行っている。	週3回入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴することも可能である。シャワー浴が中心の1階に対して、2階は半数以上が浴槽に浸かっている。また、ゆず湯や温度調整など、入浴が楽しく快適になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の日々の体調や状態に合わせて、受診等で疲れが見られる場合にはベットの時間を取り、休息を取ることができる様に支援を行っている。また、夜間に寝つけが良くない時には職員が寄り添い、時にはお話を傾聴して安心していただき、安眠できるような支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理や用法に関しては個々のファイルを作成し、管理を行っている。利用者の状態に変化があった際には即、在中看護師に相談を行い、状態に即した処置も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の習慣や趣味、嗜好は常に把握しており、楽しみのある日々を送ることが出来るよう、支援を行っている。例えば読書や編み物。塗り絵やパズル。歌と一緒に歌うなど、本人の希望に沿い、時には職員も交えてレクリエーションを行って気分転換を図ることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナといった外的な要因もあり、必要に駆られた場合でない限り、日常的な外出は控えているが、施設周辺を散歩して会話を楽しみ、気分転換に努めている。また、施設の窓越しにご家族と顔を見せ合い、電話を通じて会話をするといった方法での支援も行っている。	新型コロナの状況を見ながら、事業所周辺を散歩するなど、柔軟に対応している。コロナ禍以前は、家族とドライブや外食に出かけたり、職員と一緒に近くの神社や商店に行ったり、回覧板を持って行ったりしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に沿えるように、必要な利用者には少額のお金を持ってもらい、自己にて管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙などは必ず利用者本人に手渡している。ご家族が利用者として電話を使って話したいといった要望があった際には、ゆっくりと話ができる時間を伝え、お話をしている。また、利用者が電話でご家族と話したいといった希望があった場合には職員が取次ぎをし、お話をしてもらい、時には職員がご家族に現在の暮らしぶりを伝えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下のベンチやホール内のソファに座り、季節の壁画などを見て会話を膨らませたり、季節感を感じてもらえるように工夫をしている。	共有ホールは大きな窓で囲まれており、日当たりも良く、四季の移り変わりを見て・感じる事ができる。また、温度や湿度も適切に管理されている。機能的で利用者同士の交流を踏まえた机の配置となっており、パズルやぬり絵をしたり、新聞や週刊誌を読んだりして、思い思いに快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内での席の場所は常に考慮しており、仲の良い利用者さん同士を同じテーブルに座ってもらったりといった配慮を行っている。食後には仲の良い方と居室内でテレビを見なが談笑し、笑い声が聞こえてくる様子も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居をする前に日ごろから使い慣れた物を持ち込むことの必要性を利用者本人や家族にも伝えている。	馴染みの家族写真や布団、旅行のお土産、書写、計算ドリルなどが持ち込まれており、個々に居心地良く、家族の思いも詰まった空間となっている。また、清掃が行き届いており、清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーになっており、廊下には手すりを設置。各利用者の居室の入り口には利用者本人、家族の意向を重視したうえで名前を掲示し、その近くには各利用者が作成した塗り絵や折り紙を飾る等の工夫を行っている。		